



卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第47期生の皆さん、口腔生命福祉学科第10期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。本日めでたくご卒業される皆さんに、歯学部教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。また、今日の日を一日千秋の思いで待ち焦がれていたご家族、保護者の皆様方のご尽力にも敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程をすべて修了し、学士の称号を与えられて、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、福祉職、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

新潟大学歯学部は、昨年、創立50周年記念式典を挙行し、新たな半世紀へと踏み出しました。この50年の間に歯科界を取り巻く状況は大きく変わりました。歯学部設置当時（1965年）は歯科医師不足とむし歯の洪水で、地域歯科医療に貢献できる人材、いわゆるdrill、fill、built（歯を削って、詰めて、かぶせる）のできる人材養成が求められていました。爾来50年、社会情勢は大きく変わり、歯学部設置前の昭和35（1960）年に男性65.32歳、女性70.19歳だった平均寿命が平成25（2013）年にはそれぞれ80.50歳、86.83歳となりました。また平成25（2013）年の高齢化率は25.1%（男性22.1%、女性27.8%）となり、平成72（2060）年には39.9%に達し、2.5人に1人が65歳以上になるとの推計が出されています。従って、今までの歯科医療も健常者型から高齢者型へ大きく転換す

ることが求められています。そのため、歯学教育も今また大きな変曲点を迎え、文部科学省では歯学モデル・コア・カリキュラムの大幅改訂が、厚生労働省では歯科医師国家試験出題基準の改訂が共にリンクしながら進められています。これらの改訂のキーは「超高齢社会」ですが、加えて「グローバル化 globalizationへの対応」です。新浪剛史前ローソンCOEは「グローバルな人材に求められる要素は多様性 diversityの理解である」と、また日産のカルロス・ゴーンCOEはグローバル化の時代で大切なことは、「identityを失わず、多様性を受け入れることである」（日経新聞「私の履歴書」）と述べています。本学歯学部で学んだ口腔保健医療福祉というidentityを基盤とし、diversityの時代であるグローバルな現代での皆さんの健闘を祈念いたします。活躍するためには何が必要でしょうか？それは、異文化適応性 adaptability to cross culture、言語能力 ability in language、法令遵守 abidance、そして専門能力 ability in specialtyといわれています。皆さんのidentityの確保には専門能力を常に高め、維持することが不可欠なことはいまでもありません。

超高齢社会の中、国は歯学に対し、健康長寿社会実現への貢献、医療イノベーションの創出、国際的な医療課題の解決を期待しています。しかし、社会は口腔医療・保健・福祉のプロフェッショナルとなる皆さんに対して、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。また、社会は専門的知識やスキルを維持・向上させる責任も求めるため、皆さんにはさらに一層の

常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会から認められるためには、今日この日に、改めてこれからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。歯科医療・口腔保健従事者という職業を真摯に受けとめながら、プロとしての自信と勇気を持って、社会に対して積極的に貢献することを目指してください。学而不思則罔（学びて思わざれば則ち罔し：人から学んだだけで、自分で考えることをしないと、何もはっきりとはわからない）です。

私事ですが、私は昨年11月に教授就任20周年を迎えました。20年前、若造の新米教授に、学外のある著名な教授から次のような激励の言葉ももらいました。「君がこれから教授職を務めるのに4つのEを常に忘れずに頑張りなさい」と。頭文字Eで始まる英単語がすぐに出てくるでしょうか？この4つのEはencouragement、enthusiasm、economics、entertainmentです。小さいながらも研究室を維持できたのも、また歯学部という大きな所帯を曲がりなりに運営できたのは、この4つのEを常に念頭に置いてきたことにあるかもしれません。Disneyの創始者

Walt Disneyは夢を実現させる秘訣は4つのC、すなわち、curiosity（好奇心）、confidence（自信）、courage（勇気）、constancy（一度決心したことを続ける一貫性）によって言い表せると思っています。中でも一番大切なのが自信であり、この自信、そしてたゆまぬ努力が皆さんのidentityを高めるのです。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも熱意を持って、応援していきたいと思います。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただけるように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。すばらしい教育資源を有しています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。





御卒業おめでとうございます

医歯学総合病院 副病院長 小林 正 治 (歯科担当)

歯学科第47期生ならびに口腔生命福祉学科第10期生の皆さん、またご家族の皆様、この度の卒業誠におめでとうございます。歯学部での課程をすべて修了され、晴れて学士の学位を授与されました。これまでの努力とその成果を讃えますとともに、光り輝く未来に対して心から祝福を申し上げます。

皆さんは今、新たな人生のステージに向かってスタートの場に立ち、将来への夢や希望と緊張感に包まれていることと思います。歯学科では、これからの歯学界をリードする人材を育成することを目的として様々な教育を行ってきましたが、そこで得た知識や技術は歯科医師としての基礎となります。歯学科を卒業された皆さんは、歯科医師国家試験に合格すれば4月から臨床研修歯科医師として1年間研修施設に勤務し、その後に臨床あるいは研究の第一線で、あるいは公衆衛生など歯科医療行政の分野で活躍することとなると思いますが、歯科医師として大きく育つためには新潟大学で学んだ基礎の上に何を積み重ねていくかが勝負となります。また、口腔生命福祉学科では、高度な歯科専門知識を有しつつ、保健・医療・福祉を総合的に思考・マネジメントできる人材の養成を目的として教育を行ってきました。口腔生命福祉学科を卒業された皆さんは、歯科衛生士あるいは社会福祉士として、臨床や教育・行政の現場に進まれることと思います。皆さんには医療や社会福祉に関する広い視野と豊富な知識や高いスキル

がますます求められていきます。後進の指導もできる歯科医療や社会福祉のプロフェッショナルになれることを期待しています。

歯科医療は歯科界のみで完結するものではなく、医療全体の中の一分野としてその役割を果たすこととなります。近年では多職種連携がキーワードとなり、口腔ケアや周術期口腔管理、摂食嚥下リハビリテーションなど、歯科医師や歯科衛生士には他職種と連携して活動する場が広がってきています。また、歯科医療の対象も健常者型から高齢・有病者型へとその重点が変化して診療の内容や対応すべきリスクも大きく変化しており、こうした変化に対応し得る高い専門技能を有する歯科医師や歯科衛生士が求められています。医療の世界は日進月歩であり、生涯学び続けることが求められていますが、新潟大学歯学部の教育カリキュラムを修了された皆さんには、今後の長い生涯学習の道程を乗り越えていくために必要な基礎的能力がすでに備わっているものと思います。歯科界を取り巻く環境は必ずしも明るいものではありませんが、明確な目標を設定して地道に努力を重ねれば必ず素晴らしい未来が切り開けるものと思います。是非、知的好奇心を失うことなく、一歩一歩努力を重ねていただきたいと思います。

新潟大学歯学部ならびに医歯学総合病院歯科診療部門は、これから様々な分野で活躍する皆さんを全面的に支援します。卒業した後もいつでも門をたたいて下さい。

卒業にあたり

歯学科6年 小 貴 和佳奈

6年間は短いようで、思い返せば相応に内容の詰まった時間でした。中高時代までとは比べようのないくらい自分の意思次第で何にでも触れることのできる環境でもあり、逆に容易に手を抜くことのできる環境でもありました。しかし、将来と直結する時間であることを年々自覚するにつれて、とても楽しい時期でしたが取捨選択の難しい時期でもありました。関心を持ったことだけに突っ走り、やるべき事を後回しにしがちだった私は特に余計なことばかりしてきたと多少なり認識していますが、それもまた今後、何か自分の糧になると思っています。勿論、反省点もあるのでそれは今後の課題です。何にせよ、卒業を目の前に「悪くない大学生活だった」と思っている自分に少しほっとしています。

悪くない、なんて書いてしまいましたが、それはもっと頑張ればよかったと感じてる自分の主観的な言葉であって、沢山の方々に支えて頂いた最高の学生生活でした。良いこともしんどいことも、一番解ってくれるのは同じ環境にいる人なのだと思いました。至らないことだらけの私はきっと許されたり許されなかったりしつつも、6年間同じ場所に所属し続けられたことにとっても感謝しています。学生でありながら患者さんを診察させて頂いた臨床実習では、診療に関するだけでなく、社会人として生きてく上で最低限必要なことを先生方に指導して頂いたと感じていま

す。ご指摘頂いたこと、感じ取ったことは今後意識して過ごしていきます。また臨床実習をしつつも思ったのは、もう一度座学を受け直したい、ということです。覚えなければいけないこと、理解しなければならないことは膨大だけれど、それ全部必要なことだから！もっと頑張っておいて！と当時の自分に伝えたいです。実際に少しでも診療に触れられたからこそ、こう思うのかもしれないと思うと、やはり臨床実習は有難いものだったと実感しています。基礎から教えてくださった先生方もさっぱり解らないであろう学生の私に一生懸命伝えてくれていたのだと思うと、やり直せたらどんなに良いかと後悔しています。過去に戻ることはできないので、これからその分を取り返せるように頑張っていきたいと思います。

今の自分があるのは関わって下さった全ての人あってのもので。これからも着実に進んでいけるよう、大学生生活を忘れずに過ごしていきます。本当に有難うございました。



技工室にて。筆者は右。

卒業だ、飲もう！

歯学科6年 木村龍弥

6年間この歯学部ニュースの原稿の執筆担当をのりくらしとかわし続けてきたのですが、最後の最後でこの原稿を書くことになってしまいました。そんな自分のひきの良さなのか悪さなのかを考えつつ、この原稿と向き合っています。今回のテーマは「卒業に関して」ということなので、歯学部での6年間を簡単に振り返りながら原稿を進めていきたいと思います。

6年前初めてこの新潟の地に立ち、新潟大学歯学部の学生としての生活をスタートさせたのが遠い昔のことのように感じられるのは、年月のせいだけではないように思えます。

1年生の時は、歯学部生といいつつも教養がメインで、ほとんど歯学に携わる機会が無く暇を見つけては覚えたばかりのお酒を楽しんだりアルバイトをしてみたり、初めて住む新潟の地を散策してみたりなどの毎日でした。

しかし、2年生以降の歯学部生としての生活で思い出されるのは実習の数々です。3年生での解剖実習や4年生で畳み掛けてきた数々の臨床系の実習が印象的でした。しかし、数々の実習の中で一番辛かったのは、やはり5年生の後期から始まった臨床実習でした。

私の臨床実習は真っ黒でした。苦手な技工、書くのが大変な外科の所見、症例検討会用のパワーポイント作り、試問、様々なレポート、診療前後の先生とのディスカッション等々、思い返すとキリがありません。たまに理不尽な事で怒られるなんてこともあり、筋が通らないなど愚痴をこぼしたこともありました。そのような実習の中で始末書の恐怖というのは大きいものでした。3枚貯まると実習停止、すなわち留年の危機なのです。私

のような不器用な人間は、いつどこでミスをしてしまい始末書を書かなくてはならない状況に陥ってしまうか分からないので、それはもうドキドキでした。（その恐怖が微妙なものになってしまった事件が実習の途中でいくつかありましたが、その事件については諸事情により割愛させていただきます。）

そのような生活の中での私の救いは「お酒を飲むこと」でした。単にお酒を飲むのが好きというのもありましたが、辛かった時「とりあえず飲もう」という一言でお酒に付き合ってくれた仲間（+先生）がいたというのが大きな支えでした。同じ辛さを味わった仲間内で愚痴などをこぼしつつ酌み交わす酒の味はちょっとだけ違う味がしました。

これから先、嫌な事は多々あると思うけれど、今と変わらず「とりあえず飲もう」の一言で集まれる仲間（+先生）とお酒と良い関係を築いていけたらいいなと思います。

最後まで私の稚拙な文章に御付き合い下さいまして誠に恐縮です。私のような学生が無事卒業を迎えることができたのも周りの多くの方の支えがあったおかげだと思います。お世話になった先生方、先輩後輩、周りの友人、両親に感謝したいと思います。ありがとうございました。



同級生と（筆者は後列の中央）

卒業にあたり

口腔生命福祉学科4年 牧 口 由 依

「口腔は学年が上がるにつれて忙しい」と入学当初から聞いていた噂が、徐々に確信に変わっていきました。早いもので入学してから4年が経とうとしています。私が高校生の頃に思い描いていたキャンパスライフとは程遠いものでしたが、この4年間は毎日とても充実していました。

その中でもやはり印象に残っているのは、4年次の臨床実習です。実習が始まった当初は、12月まで本当にやっていけるのかと先が思いやられる毎日でした。月曜日に病院に向かう足取りは重く、木曜日の実習終了後は解放感に満ち溢れて学校に戻り「華の木曜日」を迎える…そんなことを毎週繰り返していました。実習では毎日学ぶことだけでなく、座学で学んだことと現場での実践とのギャップに戸惑い、悔しい思いをすることばかりでした。それでもひとつひとつの経験や失敗が積み重なって自信に変わり、患者さんから「ありがとう」と感謝された時にはそれが励みとなり、やりがいを感じることができました。

また、私は歯学部のバスケットボール部と全学の総おどりサークルに所属し、学業以外でも充実した日々を送ることができました。バスケ部では学科・学年を越えた仲間と共に同じ目標を目指し、デンタルでは女子部は2年連続3位という成績を収めることができました。総おどりサークルでは、1年次からの夢であった医歯学祭での演舞を今年度初めて叶えることができました。そしてもう一つ、おそらく初めてとなる口腔生命福祉学科の学生の親睦会も開催することができ、学年を越えたつながりを作ることができました。歯学科に比べ新しい学科とはいえ、少人数の学科であるにもかかわらず同学年以外はほとんど話したことがありませんでした。これを機に知っている後輩

が増え、特に臨床実習の引き継ぎの時はとてもやりやすく、学年を越えたつながりの大切さを実感しました。ぜひ来年度以降もこのような機会を作り出してほしいと思います。

「入学者のことば」として約4年前の歯学部ニュースには「ひとつひとつの出会いやつながりを大切にしたい」と執筆させていただきましたが、その思いを胸にこの4年間で得た出会いやつながりは私にとってかけがえのない財産になりました。

最後になりますが、不甲斐ない私に学ぶ機会を与え、成長させてくださった先生方、そしてなによりも4年間共に励まし合いながら過ごしてきた口腔生命福祉学科10期生のみんなには本当に感謝しています。この4年間での経験を活かし、今後社会に出て頑張っていきたいと思います。



筆者：前面と前列左から2人目

卒業にあたり

口腔生命福祉学科4年 正村美里

期待より不安いっぱいだった入学式から、もう4年が経ってしまいました。慣れない土地での一人暮らしで体調を崩し、一週間入院してしまった事がつい先日の事のようにです。

学年が上がるにつれ、級友やサークル仲間との交流が増えていく中、自分の居場所や今やりたい事、やるべき事が湧き出てきて、ふと気が付くと卒業が目前となっていました。特に4年次は臨床実習と社会福祉現場実習、並行してPBL、講義、特論等に取り組みながらの就職活動、国試対策という、本当に目まぐるしい日々でした。

歯科の臨床実習では、実際の診療を前に緊張してしまい、行動に移せないだけでなく、歯科衛生士さんのような気遣いもできず、私には向いていないのではないかと悩んだ時期もありました。しかし、経験を積むうちにできることが増え、アシストを任せてもらえるようになったことで、歯科衛生士としてのやりがいや喜びを感じることができるようになりました。お忙しい中、不甲斐ない私に丁寧に指導して下さった歯科医師の先生方や、いつも優しく助けて下さった歯科衛生士のみなさんにはとても感謝しています。

また、歯科の実習と並行して行った福祉の現場実習では、地域包括支援センターに行かせていただきました。包括支援センターでは、高齢者の方の生活の様子や、その生活を支える社会福祉士等

の職員の方々の活動を見学させていただき、普段机上では学べないような、実際の福祉現場について学ぶことができたと思います。そこで出会った職員の方々や、たくさんの利用者さんとのふれあいがきっかけで、福祉の道に進みたいと強く思うようになりました。一か月という短い期間でしたが、毎日優しく親切に接して下さったみなさんのおかげで充実した時間を過ごすことができ、心から感謝しています。

人としては、まだまだ未熟な私ですが、この4年間大学で学んだ歯科の事をはじめ、色々な活動を通して経験した事、人との関わりや繋がりの大切さ、温かさを忘れる事なく、その人らしい人生を送れるような最大限のサポートが出来る、強く優しい社会福祉士になれるように頑張りたいと思います。この4年間支えて下さった沢山の方々に感謝し、少しでも恩返しができるよう努力したいと思います。ありがとうございました。



筆者：中央